

# 募集

## tvk(神奈川テレビ)の人気番組「猫のひたいほどワイド」で紹介された音楽好きな友の会(音友会)がボランティアさんをさがしています。

「元住吉駅」を中心に地域交流でレコード鑑賞やライブ演奏を楽しむ「音楽好きな愛好会」が活動しています。レコード鑑賞は懐かしい「アナログの音」で皆さんと一緒に会場作りをしながら楽しみ、演奏会は「楽器本来の音を聴いて欲しい」と、PAは最小限で、「元住吉ミュージック・フェスティバル」を開催。そして情報フリーペーパー「Mマガジン」を毎月発行、地域の音楽情報や読み物を記載しています。



### 募集① レコードコンサートの受付係

- 受付担当:2名(継続可能な方希望)
- 催事名:音友レコード倶楽部
- 場所:川崎市国際交流センター レセプションルーム
- 開催日時:毎月1回(土曜または日曜) 12:30~14:00



### 募集② Mマガジンの支援スタッフ

- 自宅で「Mマガジン」原稿の校正。(継続可能な方希望)
- 方法:メールによる原稿チェック。(対面もあり)
- その他、取材、配布、写真撮影等のお手伝い。



### Mマガジンの表紙アーティスト

地域音楽情報誌の表紙を飾るクラシック、ジャズなどミュージシャンを募集しています。



### 元住吉ミュージック・フェスティバル開催準備及び実施スタッフ

開催準備2024年4月の開催へ向けて音楽好きなボランティアを募集します。



詳しくは「音友会」のホームページからお問い合わせください。

<http://ontomo.jp>



音楽好きな友の会 <http://ontomo.jp/>

A Free Magazine that Promotes Regional Revitalization through Music  
**Mマガジン**  
2023年9月16日号  
2023年8月16日発行(毎月16日発行)  
第103号  
発行・編集人:塚田順治  
編集:藤田順治 / 大場明弘  
発行:音楽好きな友の会  
川崎市中原区木月2-21-32  
TEL 090-9398-2889  
2023-8-16-800 Printing RK



Motomiyoshi Music Mate Meet Memories

元住吉の気軽な音楽会



音楽好きな友の会 <http://ontomo.jp/>

2023  
**9**  
September



音友レコード倶楽部  
レコードコンサートのプログラムは  
Light & Jazz合同開催  
●2023年9月10日(日)  
13:15開場/13:30開演  
参加費:¥1,500  
川崎市国際交流センター  
レセプションルーム  
●Light Music  
「軽音楽の集い」  
●持ち寄りタイム  
「持参レコード/CDを楽しむ集い」

島 裕介(しまゆうすけ)

トランペット・フルート・作曲家  
1975年東京出身。2002年からプロ活動を始め、これまでに400以上のアルバムに参加、CM録音は100本を超える。初期リーダーユニットではFujiRock07、東京ジャズ08への出演、メジャーデビュー。個人名義のCDアルバムは12作リリース、CM「そうぞう都府道」2011年秋版での演奏、テニス世界大会「楽天オープン2019」決勝での国歌トランペット独奏(皇室観覧)。配信サイトSpotify総リスナー数162ヶ国から80万人超、アルバム「Prayer」300万再生超。各国でライブ活動中。

## 連載48 そして音楽の旅は続く ラテン音楽との出会い



▲GETZ/GILBERTO

この9月号が出るころには厳しい暑さも一段落しているといいな。若い時から夏は大好き!なのですが、近年は暑すぎますよね。私が子供のころはエアコンの無い家庭も多く、扇風機だけで過ごしたもんです。夜は窓を開けて寝ると寒いくらいでした。でも今は熱中症を考えるとエアコンは必要ですね。地球の温暖化を考えると悩ましいのですが、とりあえず今夜は涼しくて、良い眠りにつきましょ。

さて今回はラテン音楽との出会いをお喋りしたいなあと思います。ジャズ歌手は、ボサノバも唄うことがあります。ボサノバの名曲「イバネマの娘」は必須だと思いますし、ジャズのスタンダード・ソングをボサノバのリズムにすることもよくあります。ジャズ歌手が最初に手に取るボサノバは

「GETZ/GILBERTO」というアルバムだと思えます。ポルトガル語と英語の歌詞があって、英詞のほうは取り掛かりやすいですね。私も初ボサノバの「イバネマの娘」はこの英詞で覚えました。次に覚えたのはミュージシャンがよく演奏する「TRISTE」という曲で、ポルトガル語を耳コピしてライブで唄ってみました。すると、アレレ?なんかミュージシャンの演奏と私の歌は、リズムの雰囲気が違うぞ~ということに気が付きました。さあ!勉強です!ジャズピアニストの重久義明さんに、ボサノバ歌手の野沢知子さんを紹介していただき、ポルトガル語の歌詞の読み方を指導してもらいました。個人的な考えですが、やはり演奏は日本語、ジャズは英語、ボサノバはポルトガル語という原語を、まずはやってみようという気持ちで勉強になる気がします。そして勉強も目標無しではだらだらしてしまうので、一夜限りのボサノバライブを企画しました。ピアニスト重久さんと、ギタリスト須古典明さん、パーカッションにはケル木村さん。ケルさんはボサノバ界の重鎮ですが、とっても優しくあったなあ。緊張の連続の一夜でしたが、楽しいライブでした!ボサノバのリズム修行のために、今でもボサノバはポルトガル語で唄うことが多いのですが、なんと!今度ジャズ歌手が最初に手に取るボサノバは

## ジャズボーカリスト 星乃けい

official website  
<https://www.hoshinokei.com>

「チョ」!スペイン語です。スペイン語がお得意なお客様から発音ミスをご指摘頂いたのですが、発音ミスのご指摘は本当にありがたいです。以前にもジャズのスタンダードソング「素敵あなた/Bei Mir Bist Du Schon」を歌った時にドイツ語の読み方をお客様に教えていただきました。「BESAME MUCHO」は人気のある曲なので今度はスペイン語の勉強です。師匠は伝説の日本人ラテン歌手、YOSHIRO 広石さんです。ジャズ歌手って、意外とやる事がたくさんあって、ボケボケしてられないのよ~。めっちゃ!楽しいんだけどね!



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。

常連の参加者との共同製作です。撮影・編集はギター奏者の永瀬晋が担当。新規参加の前に、ぜひご覧ください。YouTube配信中。

音友レコード倶楽部PR動画!  
「音友レコード倶楽部」をわかりやすく説明したPR動画を是非ご覧ください。

**島倉 学ミュージックスクール**  
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング

30分無料体験レッスン実施中!

【レッスンスタジオ】元住吉駅西口 徒歩5分  
島倉音楽スタジオ  
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月3-35-1 ART FLATS B1F(106F)

【お問い合わせ】  
島倉音楽事務所 営業日:火曜~土曜 12:00~21:00  
代表 島倉学 休日:日曜・月曜

TEL 044-567-5940 Mail: info@ms-musicschool.com  
HP: <http://www.ms-musicschool.com/>

驚くほど歌い方が上達する「島倉学メソッド」  
歌が人生を変える 音楽は決して貴方を裏切らない

**島倉 学ミュージックスクール**  
プロ志望専門ヴォイス・トレーニング

30分無料体験レッスン実施中!

【レッスンスタジオ】元住吉駅西口 徒歩5分  
島倉音楽スタジオ  
〒211-0025 神奈川県川崎市中原区木月3-35-1 ART FLATS B1F(106F)

【お問い合わせ】  
島倉音楽事務所 営業日:火曜~土曜 12:00~21:00  
代表 島倉学 休日:日曜・月曜

TEL 044-567-5940 Mail: info@ms-musicschool.com  
HP: <http://www.ms-musicschool.com/>

川崎市国際交流センター

<外国につながる子どもたちのための高校進学ガイダンス>  
神奈川県内の公立高校に進学するために必要な情報を提供する説明や相談会。

日時:2023年9月18日(月・祝) 13:00~16:00  
場所:川崎市国際交流センターホール  
申込み:9月2日まで <https://hsguide.me-net.or.jp/reservations>  
対象者:中学3年生、保護者  
定員:24世帯まで(各世帯3名まで)  
内容:高校紹介、総合相談 など  
行政書士による無料相談会もあります。  
問合せ: koko@mcajp.com  
主催:多文化活動連絡協議会  
共催:(公財)川崎市国際交流協会、神奈川県教育委員会、認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ

通訳あり 入場無料要申込!

お問い合わせ  
川崎市国際交流協会  
TEL 044-435-7000  
FAX 044-435-7010  
E-mail:kiankawasaki@kian.or.jp  
ホームページ <https://www.kian.or.jp/>  
川崎市中原区木月紙園町2-2  
元住吉駅から徒歩10分

川崎市生涯学習プラザ

第128回 ランチタイム・ロビーコンサート

●日時:2023年9月14日(木)  
12:00開場/12:10開演/12:40終演予定  
●場所:川崎市生涯学習プラザ・1Fロビー  
●料金:無料  
●出演:二胡カunterビレ/二胡  
●プロフィール:  
中国の民族楽器、二胡の音色に魅了され、天華二胡学院・東京教室に通う仲間と2011年結成。以来、福祉施設・支援学校、地域のフェスなどで演奏活動を行っている。

お問い合わせ  
(公財)川崎市生涯学習財団  
総務課 総務係  
ロビーコンサート担当  
TEL 044-733-5560  
E-mail:concert@kpal.or.jp  
川崎市中原区今井南町28-41

●予定曲  
小さい秋みつけた~赤とんぼ  
風  
美女と野獣  
茉莉花  
グリーンスリーブス  
あの素晴らしい愛をもう一度  
賽馬

音楽好きな友の会(音友会)

10月、11月、12月の開催会場変更のお知らせ

国際交流センターの「長寿命化工事に伴う施設の利用停止」に伴い10月、11月、12月のレセプションルームの開催会場が「生涯学習プラザ」に変更になりますのでご注意ください。

開催会場:  
川崎市生涯学習財団  
川崎市中原区今井南町28-41  
1階101活動室  
TEL 044-733-5560  
E-mail:concert@kpal.or.jp  
定員:16名

●開催日時:9月10日(日)  
開場:13時15分/開演:13時30分/閉会:16時30分  
●開催会場:川崎市国際交流センター・レセプションルーム  
※ソフトドリンク等の持ち込み可  
●参加費:1,500円 ※高校生以下¥500  
※次回10月は7日(土)を予定しています。  
詳細はHPをご覧ください。  
※手の消毒、マスクのご持参をお願いします。  
※音友レコード倶楽部PR動画配信中  
※詳しくは「音友会」のホームページからお問い合わせください。  
<http://ontomo.jp>

2023年9月10日(日) Light Music「軽音楽の集い」のプログラム

●「ブリティッシュ・ジャズ・ロックあれこれ」  
1970年代においてアメリカではシカゴ、BST等のブラス・ロックが流行していましたが同時期、英国においてはジャズ・ロックが流行していました。  
ブラス・ロックはTPやTB等を含めたブラスが中心でしたが、英国のジャズ・ロックにおいてはサクソフ、ギターを中心とした編成となっています。  
今回その中からIFを始めとしたいくつかのロック・グループのアルバムを紹介していきます。

●持ち寄りタイム「持参レコード/CDを楽しむ集い」  
多くの方々のレコード、CDが楽しみながら聴ける「持ち寄りタイム」の時間を増やしました。「持ち寄りタイム」はノンジャンルです。コレクション、秘蔵音源がありましたら是非、お聴かせください。

担当:藤田順治

2023年9月10日(日) Light Music「軽音楽の集い」のプログラム

●「ブリティッシュ・ジャズ・ロックあれこれ」  
1970年代においてアメリカではシカゴ、BST等のブラス・ロックが流行していましたが同時期、英国においてはジャズ・ロックが流行していました。  
ブラス・ロックはTPやTB等を含めたブラスが中心でしたが、英国のジャズ・ロックにおいてはサクソフ、ギターを中心とした編成となっています。  
今回その中からIFを始めとしたいくつかのロック・グループのアルバムを紹介していきます。

●持ち寄りタイム「持参レコード/CDを楽しむ集い」  
多くの方々のレコード、CDが楽しみながら聴ける「持ち寄りタイム」の時間を増やしました。「持ち寄りタイム」はノンジャンルです。コレクション、秘蔵音源がありましたら是非、お聴かせください。

担当:藤田順治

### 連載32 団塊じいのジャケ買い遍歴 バッハのパイプオルガンは電子音

神山 昇



▲Switched-On Bach/Wendy Carlos  
デザイン:チカ・アズマ



▲月の光/富田勲  
デザイン:不明

同僚のカメラマンが「おい、すげえの探してきたぞ」とLPを抱えて出社してきた。僕らのアーティスト集団「株式会社DO-HOUSE」はデザイナーや写真家や映像作家のインターメディア的広告会社で、マスコミから少しだけ注目を集めていた。とにかく新しいモノやコトが目がなく月曜の朝となると皆が休み中にそれぞれ得たご自慢の情報が集まる。そこで聴いたのがウェンディ・カルロ

スの「スイッチト・オン・バッハ」だった。高校の音楽教室でバッハの恐らくパイプオルガンによるレコードだったと思うが、それを聴かされていたから、音色の違いに驚いた。「これはバッハじゃねえじゃん」「オルガンじゃねえよ、良く聴いてみる《電子音》だよ」僕がまともにシンセサイザー音楽を聴いた初めてのレコードだった。ジャケットが面白かった。バッハの後ろにあるオルガンを良く見るとパイプの代わりにレ

コーディングミキサーのようなパネルが一面にある。電子楽器だ。シンセサイザーという言葉は以前から聞いたことがあったが、ノコギリ音楽のようであり今ひとつ馴染めなかった。それから少し経って、今度は同僚の映像作家が「これはどうだ」と聴かせてくれたのは、富田勲のアルバム『月の光』だった。それまでのシンセサイザーの音楽はパンキョウであり、実験的な要素が高かった。それを大衆が受け入れる音楽にしたかったと富田は語っている。僕はというと、ほぼ同じ頃に聴いていたピンク・フロイドの『原子心母』や『狂気』に心を奪われていたから、このようなクラシカルベースの音楽について、社内の彼らを前に過小評価をぶっていた。後に富田勲と何かの仕事で同席でき、いろいろな話を聞くことができ、それまでの開発については完全に圧倒された…。この経験は、音楽イコールモダンジャズ&ロックからクラシックや現代音楽へと素直に耳を傾けられるようになった。

### 音友レコード倶楽部Report Light Music & Jazz Date 2023年7月 コンサートの報告

### 急遽、オール持ち寄りタイムでの開催となりました。 大場アキヒロ

当日は盛夏を思わせる暑い日曜日でしたが、都合により急遽、オール持ち寄りタイムでの開催となりました。今回も参加された皆さんからJAZZから歌謡曲まで、バラエティーに富んだ音源の紹介がありました。最初はジャズのインスト・アルバムから。カナダ生まれのジャズギタリスト、エド・ビッカートの『THIRD FLOOR RICHARD』(1989) (写真①)より、「バンド・コール」からスタート。日本では馴染みが薄いかもかもしれませんが、ボールド・デズモンドのアルバムにも加わったほどの実力者。いぶし銀のプレイが聴けました。インスト・アルバムをもう1枚。スイング時代、同じクラリネットでベニー・グッドマンのライバルでもあった、アーティ・ショー。彼はビッグバンドと並行して、コンボでも活動しましたが、その彼のコンボ『グラマシー・ファイブ』でのラスト・レコーディング、「I can't get started」(1953)よりアイ・キャン

ト・ゲット・スターテッド”イマジネーション”。ベニー・グッドマンとは全く異なるクールでモダンなプレイは同じくモダン・クラリネットのバディ・デフランコに通ずるものがあります。女性ヴォーカル物も数枚紹介がありました。カナダ出身の女性ジャズ・ピアニスト、歌手であり、日本でも人気のあるダイアナ・クラールのアルバムより、彼女の初のライブアルバム『LIVE in PARIS』(2002)より「レッツ・フォール・イン・ラブ」。本アルバムは300万枚も売り上げたヒット作。彼女のピアノ・トリオをベースにストリングや管楽器も加えたリッチな編成で、リラックスしたステージの雰囲気が伝わってくる秀作。キュートな声がチャーミングな「ウィスパー・ヴォイスの妖精」プロッサム・ディアリー。彼女のアルバム『ONCE UPON A SUMMERTIME』(1958) (写真②)より「ティーチ・ミー・トゥナイト」”マンハッタン”。彼女のスタイルは好みの分かれるところですが、筆者は好きなシンガーのひとり。本アルバムは彼女の代表作でもあります。ティナル・イズは1934年、ニューヨーク生まれの女優。彼女が唯一残したヴォーカルアルバムが『IT'S TIME FOR TINA』(1957) (写真③)より「トゥナイト・イズ・ザ・ナイト」。B級女優でありましたが、この『IT'S TIME FOR TINA』はかつてコレクターズ・アイテムとしてオリジナル盤は数万円の値が付いたこともあるアルバム。バディ・ウィード指揮のオーケストラをバックに、囁くように唄う彼女の歌は深夜にヘッドフォンで聴くのがおすすかも知。ポピュラーの混声コーラスグループのアルバムも1枚。日本ではほとんど馴染みのない英国のグループ、マイク・サムズ・シンガーズ。彼らの1964年のアルバム『Smooth』より「イバナマの娘」”ジス・クッド・ビー・ザ・スタート・オブ・サムシング・ビッグ”。彼らのスタイルはソフト・ロックと呼ばれるジャンルになりますが、スカットとコーラスの組み合わせやコーラス・アレ

ンジの妙味など大人の味わいを感じるアルバムです。普段、レコード倶楽部ではほとんどかかることのない歌謡曲のバディ・デフランコに導くものがあります。岩崎宏美の『決心』(1985) (写真④)。昔懐かしいドーナツ盤(EP盤)での紹介でした。当時、宝石のカメラアダイヤモンドのCMソングとしても使われました。彼女の美声が心に洗われます。最後は学生ビッグバンドの雄、慶應義塾大学のライト・ミュージック・ソサイエティのOBで構成された『スターライト・オーケストラ』のCDの紹介がありました。ライト・ミュージック・ソサイエティは山野ビッグ・バンド・ジャズ・コンテストで最多最優秀賞を獲得するなど、学生ビッグバンドの名門。そのOBで編成された本ビッグバンドのスタジオ録音のCD『Angel Eyes』(2013)を鑑賞しました(写真⑤)。バンドのテーマ曲は”コントラスト”。この曲はトミー・ドーシー(tb)の実兄でアルトサクソフ/クラリネットの名手ジミー・ドーシー楽団のテーマ曲でもありました。続いて鑑賞した「オン・グリーン・ドルフィン・ストリート」はモダン・ジャズのアーティストによく取り上げられますが、スターライト・オーケストラはピアノのジョージ・シアリング・クインテットと女性ヴォーカルのナンシー・ウィルソンの共演盤でのアレンジをビッグバンド用に仕立て直した、洒落たアレンジを聴かせてくれました。なおこの編成は音友会主催の「元住吉ミュージック・フェスティバル」で音楽監督の伊津野忠里さんとこのことです。その他、「宮間利之とニュー・ハード」の1977年の三鷹市公会堂ホールでの生録音会の音源の紹介など、この日もLP盤で幅広いジャンルの音楽に触れ、ふくよかなアナログサウンドを聴いて充実したひとときとなりました。なお、この日のDJタイムの予定でした「プリティッシュ・ジャズ・ロックあれこれ」の特集は9月10日(日)のレコード倶楽部で実施の予定です。



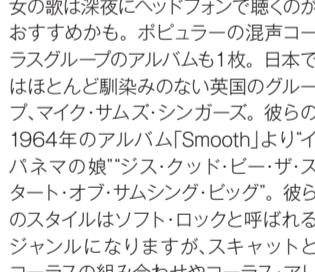
▲①Third Floor Richard /The Ed Bickert Trio



▲②Once Upon A Summertime /Blossom Dearie



▲③It's Time For Tina/Tina Louise



▲④決心/岩崎宏美



▲⑤Angel Eyes/StarLight Orchestra

### 連載-Take 24 懐かしいタンゴレコードを買いました。 塚田 親一

大学の音楽研究会でビッグバンドに入部した新入生は必ず渋谷のダンスホール「ハッピーパラー」に練習方々アルバイトで行かされた。しかし筆者は宇田川町の中程の十字路角にあった大きな喫茶店の地下にあったキャバレーに行かされた。4、5名のバンドが2バンドで交代で演奏。お酒で気持ちよくなったお客さんはダンスに夢中。バンド演奏はスウィング、ロック、片やタンゴバンド。筆者は何かタンゴバンドのドラムになった。アルゼンチン・タンゴとコンチネンタル・タンゴすら知らない筆者はもう大変。また日によって歌が入る事も

ある。初見での譜面が読めなかった筆者は交代バンドのドラムさんに歌の時はお願いして演奏して貰った。このキャバレーは更衣室と控え室がバンドマンと女性歌手など一緒に目のやり場に困ったこともあった。だが何故かバンドマスターに気に入られタンゴの叩き方を習いにいくことになってしまった。お陰で両タンゴのアクセントの違いなどの勉強になったが、後のビッグバンド演奏ではタンゴが演奏が無かったのが残念！(笑)。学生時代の「楽しい思い出が蘇ってくるか」楽しみに タンゴレコードに針を落とす聴いて見ようと思う。



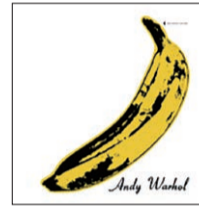
▲Gran Impacto Del Tango Argentino

### 連載05 脱線ニューヨーク滞日記 前号からのつづき

出村 克明

だ。…その頃ニューヨークでは、真しやかにゲイの人は左か右かどちらかにピアスをしてるとか言っていました。確かにその様な人もいましたがファッションでもありました。ビレッジにはゲイと関係あるか否かですが、GAY ST.があります。今や観光地になっています。豊かなアメリカの明るく、元気で、ポジティブなマジョリティー社会は受ける種LGBTや変わり者(異端者)を受け容れないアカデミックで封建的で保守的な社会(どこの社会でも同じですが)の一面もあります。そんな社会の価値観からはみ出した人々が自由のイメージのビレッジ等に当然の様に集まり、その中の革新的作家(ギンズバーグ、パロース、ケルアック他)やアーティストが闇に光を当てたと云うより闇自体を光らせた。1950年代頃より始まったビートニクムーブメント-既存の価値観、固定観念に対するの逆反、破壊、アンダーグラウンド、ドラッグ、性の解放等一般社会では非道徳的な部分を持つながらも、ビートゼネレーションの持つ自由な精神がアフリカ系アメリカ人の公民権運動、反戦、ジェンダー、環境問題などがヒッピー文化に繋がり、今日それらを一般的に語れる様になった一因だと思います。しかし問題が浮き上がってきただけで、改善どころかより深刻になってきているのも現実です。

たジョン・ケージ作曲の「4分33秒」という4分33秒間無音の曲が演奏され、酷評されました。現代アートと現代音楽が真にコラボレートしました。(僕は1992年に銀座のギャラリー現と云う画廊で作品の無い個展をしました。怒って帰る人もいました。2018年にニューヨーク近代美術館(MoMA)へ行き、ある作品の室に入りましたが在るのは作家の小さなネームプレートだけでした。僕は怒らないで出ました。) そんな中ポップアートのロイ・リキテンスタイン、アンディーウォーホルなど多くの現代美術家が輩出されてきました。アンディー・ウォーホルはシルクスクリーン作品で有名になりましたが、多くのジャズレコードのジャケットデザインもしてました。60年代後半にルー・リンド&ニコのレコードジャケットをポップアートとして制作し映像などでコラボしています。その後ロリリングストーンズのジャケットもデザインしていましたが、いずれもある種の意識を暗示しています。彼の初期の映像作品をソーホーの画廊の様な所で観ました。プロウ・ジョブと云うタイトルで机下で口淫されている中年男の顔だけを30分程固定カメラで撮った作品でした。他にもエンパイアステートビルを8時間5分定点で映し続ける「エンパイア」と云う作品も発表しています。ヒッピー文化とベトナム戦争が同時期のこの時代(映画トム・ハンクス主演のフレスト・ガンブの時代背景がその頃のベトナム戦争のシーン、ヒッピーのシーン、サウンドも同時期のロック等沢山流れてます。僕の居た頃とも重



▲出村克明展の案内状  
裏面は、白紙

### 【敬愛するデュシャンは既にアメリカに居る】

デュシャンの名の下には「花嫁が独身男性に裸にされる事さある」と書かれています。(翻訳アプリより) 現代音楽では1952年にデュシャンを評価し

### 連載84 「くじら座」日記 音楽

牧野 憲人



音楽は「音を楽しむ」と書く。「若者よ、楽しまなければ音楽ではないぞ」とは筆者もよく言われてきたものだが、実は音楽の本当の語源は「人や神の声(=音)」。「楽器(=楽)」といったものよ。この後付けとして、人や神の声、そして楽器を奏でる音が人々を喜ばせたり笑顔にさせたりすることから、「たのしい」という意味に「楽」の漢字が当てはめられたものであるらしい。筆者は「音を楽しむ」というのは後付けである」と聞いたとき、これがストーンと心に落ちてきた。

なぜなら、筆者にとって、これまで音楽を続けてきて感じている想いは、単なる楽しさだとは思えないからである。自宅で何の気無しにギターを鳴らす瞬間、お風呂に入りながら歌を口ずさむ瞬間、日常を切り取ってみれば、純粋に音を楽しんでいる時間も多々ある。しかし、レコーディングに臨む瞬間、ライブステージに立つ瞬間といった、興奮や緊張、不安に覚悟といった時間も多し。さらには、作詞や作曲を行う、生みの苦しみの時間もある。創り出した作品が評価されない悔しさもある。十代の頃から音楽を志してきた筆者は、しばしば友人から「俺には何も無い、お前には音楽があつて良いな」と言われたことも多いが、これに呼応する筆者の内心は「音楽がなかったら、もっと楽だったの

### 連載64 Course: Addicted to Guitar なかはらっば祭り参加して参りました!

永瀬 晋

いつもお世話になっております。今月もソウリーヴ・ミュージック・スクール永瀬がお送りいたします。今月はいつものギター講座に代わりまして、先日7月16日に行われました「なかはらっば祭り」に「音楽好きな友の会」メンバーとして参加して参りましたので報告記事を書いてみようと思います。今回は自身初の参加でございましたがコロナ過もありフルバックでの開催は実に4年ぶりのことで、本番前の実行委員会も皆様かなり気が入った議論をしながら準備しておりました。

参加団体も音楽系からスポーツ系、文化系、食品系などかなり多岐にわたり、色々な団体様とお話できたのも今月の活動へ収穫でございました。そして当日ですが「音楽好きな友の会」はステージ演奏での参加となりまして、ギターの弾き語り、ギターソロインストで演奏をして参りました。ステージになった中原市民館のホールは初めて使用しましたが館内はとても綺麗で、音響、照明の担当様も短いハーサルで素晴らしい環境を作っていました。おかげ様で最高に楽しい演奏をキメて

なってました。) 1969年ウッドストック・フェスティバルが行なわれ、ヒッピー文化の象徴でありビークでもありました。話が逸れますが、ビートニクスからヒッピー文化まで偏(ひとえ)に自由、解放を謳ってますが白人中心の感を呈しています。マルコム・Xやキング牧師とは人種差別問題では繋がりがあるものの、ビートゼネレーションそれ自体もその影響を受けたミュージシャンも、リード、ジム・モリソン、ボブ・ディラン、ジョン・レノン、他。(注:ビートニクとJAZZ、黒人音楽に就いては又)ウッドストックの出演メンバーもリッチー・ヘイブン、ジミー・ヘンドリックス、スライ&ザ・ファミリー・ストーンなど数名(インド音楽のラビ・シャンカールなどはべつとして)の他はほとんど白人ミュージシャン。ただ特筆すべきは、この祭典の幕開けにアフリカ系アメリカ人のリッチー・ヘイブンがアコースティックギターとコンガをバックに「フリーダム」を熱唱し出したのを機に、みんなが立上り一気高揚感に包まれました。(僕はビデオでしかみていませんが)会場に集まったのは40万人とも云われてますが数パーセントかの黒人も白人も(多くはヒッピーでほとんどが白人)差別の意識すら意味がないまでの自由の空気、まさにヒッピーのプロバガンダLove&Peace&Free状態でした。

因縁と云うか残念と云うかルーサー・キング牧師は前年1968年に凶弾に倒れました。もう一つの特筆すべきは「ウッドストック・フェスティバルと同じ夏、行なわれた」と NYハーレムの公園でブラックミュージックの祭典ハーレム・カルチュラル・フェスティバルが行われ30万人も参加しスティービーワンダー、B.B.キング他JAZZ勢、ラテンアフリカン...等多くのブラックミュージシャンが出演しました。最高! しかし、テレビ放映はされなかったようです。次号へつづく ヘポバ

ソウリーヴ・ミュージック・スクール SouleaveMusic School http://souleave-music.com/ 元住吉駅徒歩3分、武蔵小杉駅徒歩13分 チケット制 音楽教室 Tel 044-750-8992 レッソンは8:00~22:00開始迄、詳細は要連絡

MOTTON CLUB 全国のミュージシャン、そして音楽活動に関わる人をネットワークしたい。演奏の場を創り、ライブと楽曲の発信活動を後押しが目的です。元住吉から世界に向けて配信しています。登録アーティスト募集! 演奏者の方々で「モットンクラブ」から配信希望の演奏動画を募集しています。(近郊で企画、運営可能なスタッフも募集)